

# 東宏社長

トンネル・土木資材商社の東宏（札幌市東区）の社長に田淵優也氏が5月19日付で就任した。親会社である日建リース工業の営業本部長付で、在籍出向の形となる。田淵社長は「トンネル資材商社としてトンネル工事の効率化や省人化に貢献したい。ICTを活用した技術も積極的に提案したい」とし、トンネル坑内で情報端末が使える環境を提供し、生産性向上などを側面から支援する方針。

## ◆今後の経営戦略は

— 就任の抱負は。  
「北海道に初めて赴任し、北海道新幹線や再開発事業、半導体関連施設整備など、道内は例を見ない規模の建設投資が行われている。国内のトンネル工事をみると、リニア



たぶち 田淵 優也氏

## この人に聞く

### グループのシナジー高める

中央新幹線や高速道路複線化など数多くある。こうした旺盛な建設投資をバネに受注量を伸ばしたい。もう一つは創出した利益を社員に還元する仕組みを取り入れたい」

— どのような還元の方法を考えているのか。  
「日建リース工業で海外法

人勤務の公募に応募し、ベトナムで6年間仕事させてもらった。現地事務所の立ち上げから、地下鉄や火力発電所、隈研吾氏が設計した建築物への仮設材の設計や資機材レンタルなど、さまざまな仕事に携わった。海外では社員の貢献度に応じた利益還元が一般

的だ。海外の良いところと日本流経営の良いところを上手に融合させ、会社への貢献度を数値化し、利益を社員に確実に還元したい。人事戦略を起点とし、アグレッシブな人材を活用したい」

— 今後の経営方針は。  
「当社は50年以上の歴史が

あり、独自の特許技術も43件ある。トンネル工事での覆工コンクリート養生システムをはじめ、防音や粉じん飛散防止、養生のための各種バルーン、レンタル商品となるデジタル粉塵計など、各種のトンネル関連技術や提供商品がある。この技術を次の若い世代に継承し、お客さまに信頼され、喜ばれる技術や商品の幅を広げていきたい」

— 注視する分野は。  
「社内のWi-Fi設置を提案し、現在施工業者と共同で実証実験中だ。こうしたICTの活用にも取り組む」

「これまでトンネル工事の品質確保や安全対策、生産の効率化などに資する技術や商品をゼネコンに提案してきたが、今後はICTも検討課題だ。国土交通省はi-Constructionを展開中で、情報端末が使える環境整

「日建レンタコムグループでの役割は。」「当社の事業拠点は北海道と東京の2カ所だが、トンネル工事現場への営業は全国で展開している。親会社の日建リース工業には、トンネル事業部があり、トンネル切羽から出るズリを砕く破砕機やベルトコンベヤーのレンタル事業を展開している。グループ会社の大栄工機（滋賀県長浜市）は、トンネルの鋼製セン